

第3学年 社会科学学習指導案

【山形県】

日 時：

場 所：

生徒数：

指導者：

1 単元名 「国際社会の仕組み」(『新しい社会 公民』)

2 単元の目標

- (1) 北方領土の歴史や現状、返還に向けての対策について、主権国家と関連させて理解することができる。 【知識及び技能】
- (2) 北方領土問題について、その歴史や現状などを相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 北方領土問題について、見通しをもって学習に取り組み、諸課題を追究しようとする。また、北方領土問題について、今後も関心を持ち続けようとする 【学びに向かう力、人間性等】

3 指導にあたって

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の下記の内容に基づいて構成している。

2 内容 D 私たちと国際社会の諸課題

(1) 世界平和と人類の福祉の増大

ア [知識及び技能]

(ア) 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解すること。その際、領土(領海、領空を含む)、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解すること。

イ [思考力、判断力、表現力等]

(ア) 日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

北方領土は日本人が開拓し、歴史的に見ても、国際的な取り決めから見ても、日本固有の領土である。しかし、終戦直後のソ連軍の不法占拠により、島民は島を追われることになり、この不法占拠はソ連が崩壊しロシアとなった現在も続いている。本単元では、北方領土問題を取り上げた「壁新聞」を作成し、本校の教員、生徒に伝えることを通して、生徒の北方領土問題への関心を高め、北方領土問題についての理解を深めさせたい。

また生徒が学習を進めていく中で様々な資料にふれ、北方領土問題をその歴史や占領前の暮らし、現状、元島民の思いや将来への展望など、多面的・多角的な視点でとらえることができることも、本単元の目標の一つである。

そして本単元を学習することにより、最終的には、生徒が北方領土問題に関してテレビや書籍などで目にした時に、本単元で扱った内容を思い出し、ここで身に付けた知識を根拠にして自分なりの考えを持つことができるよう、関心を持ち続ける姿勢を育てたい。

(2) 生徒について

本学級の生徒には、授業に真剣に臨み、社会的事象について理解を深めようとする姿が多くみられる。また間違いを恐れずに発言したり、課題解決のために積極的に意見交換をし合ったりするなど、頑張ろうとする気持ちも強い。

一方で、事象同士を関連付けて考えることに苦手意識を持つ生徒が多く、それに伴って自分の考えを根拠とともに主張することは難しい。そのため、一つ一つの基本的な知識・技能の定着もそうだが、学習した内容を大観させ、関連付けさせて理解につなげていく工夫が必要である。

北方領土問題に関するレディネステストでは、以下のような回答が得られた。(回答数23)

<p>あなたは「北方領土」問題についてどれくらい知っていますか？</p> <p><input type="radio"/> 知っていて、詳しく説明できる . . . 1人</p> <p><input type="radio"/> 知っていて、ある程度説明できる。 . . . 3人</p> <p><input type="radio"/> 知っているが、少ししか説明できない。 . . . 10人</p> <p><input type="radio"/> 知っているが、説明することは難しい。 . . . 9人</p> <p><input type="radio"/> 知らない。 . . . 0人</p>
<p>「北方領土」問題に、どれくらい関心がありますか？</p> <p><input type="radio"/> とても関心がある。 . . . 1人</p> <p><input type="radio"/> まあまあ関心がある。 . . . 5人</p> <p><input type="radio"/> どちらともいえない。 . . . 8人</p> <p><input type="radio"/> あまり関心がない。 . . . 7人</p> <p><input type="radio"/> 全く関心がない。 . . . 2人</p>
<p>「北方領土」問題は、日本とどこの国との問題か、知っていますか？</p> <p><input type="radio"/> 知っている。 . . . 19人</p> <p><input type="radio"/> 知らない。 . . . 4人</p>
<p>「北方領土」問題に関するニュースや記事を、テレビや本などで目にしたことはありますか？</p> <p><input type="radio"/> ある。 . . . 15人</p> <p><input type="radio"/> ない。 . . . 8人</p>

次の中から、知っているものを全て選んでください。

- 日魯通好条約（下田条約）・・・10人
- 樺太千島交換条約　　・・・17人
- ポーツマス条約　　・・・23人
- サンフランシスコ平和条約・・・21人

「北方領土」に関して詳しく学習する機会があったら……

- 学習したい。　　・・・9人
- まあまあ学習したい。　　・・・7人
- どちらともいえない。　　・・・7人
- あまり学習したくない。・・・0人
- 学習しなくてもいい。　　・・・0人

全体的に、北方領土問題に関して詳細に理解している生徒は少なく、またあまり関心を持っていない生徒もいる。その一方で、北方領土問題に関して詳しく学習する機会があったら、それを利用することに抵抗を覚える生徒は少ない。これは、「北方領土問題は難しいものだ」と認識しているが、学習の機会があればチャレンジしてみたい。」と感じている生徒が一定数以上存在することを示している。

そこで今回は、生徒自身が「壁新聞」を作成する発信者の立場となる機会を設けることで、本単元の内容への関心を高め、その過程で様々な資料にふれさせ、北方領土問題を多面的・多角的にとらえさせる。その際、お互いの関わり合いは活発にできるので、上手く関わらせ、全員を根拠のある主張ができる発信者に育てたい。

(3) 指導について

本単元は、北方領土について地理的分野、歴史的分野に次いで3回目に学習する部分にあたる。そのため、知識・理解がある程度深まっていなければならない分野である。

そう考えた時に、各分野で何度も「社会的な見方・考え方」を経験してきた3年生だからこそ取り扱える部分でもある。今回は公民的分野で、北方領土問題を多面的・多角的にとらえ、学習を進めていくことができるようにしたい。

また、社会的事象と自分の考えを整理し、それを根拠に基づいて主張することを苦手とする生徒は多い。いざやってみると、社会的事象の単なる羅列に終始してしまったり、理解度の高い生徒の解答の丸写しで終わってしまったりする 경우가殆どである。そこでブレインストーミングを行いたくさんの考えを出させ、生徒自身にとって最も興味のある項目を発見させ、壁新聞を媒体として発信するという経験をさせることで、生徒が根拠に基づいた主張をできるようにしたい。

4 研修テーマとの関連

本授業は、「北方領土問題授業研究会」に、本地区現職教育協議会社会科専門部研修会を兼ねて行うため、可能な限り関連を図ることとさせていただきます。

【研修テーマ】

社会とのつながりを実感し、よりよい社会を創造していく力を育てる社会科学習

【取組の重点とかかわって】

(1) 社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題を追究できる単元構成の工夫

- 育成すべき資質・能力の吟味
- 問題解決的な単元構成・学習過程の充実
- 課題設定、問いの持たせ方の工夫（必要感、児童生徒が見通せる、単元を通して・各時間）

本単元は、自分たちも、そして一般的にもあまりよく知られていない北方領土問題について、自分たちが資料から調べたことを基に壁新聞を作成し、他の生徒や先生方に発信する活動を中心に仕組む。わかりやすい壁新聞を作成するためには、調べた内容を整理・統合する過程で、「北方領土問題」という1つの事象を、多面的・多角的に考察する（社会的な見方・考え方を働かせる）必要がある。本時では、「●中の先生方、生徒のみんなに、北方領土についてよく知ってもらうためには、どんなことを記事にして発信すればいいだろう」という学習課題を設定することで明確な動機づけを行い、意欲と主体性を引き出しながら進めたい。

(2) 社会的事象を認識し、多面的・多角的に考える場の工夫

- 児童生徒の対話を促し、考えを広げ深めていくための手立ての工夫
- 資料の活用、調べ学習の充実
- 協働的に学ぶための手立ての工夫（児童生徒主体、学習形態、ICT活用、話し合い活動、合意形成）

本時では、北方領土問題を様々な面から読み取ることができる資料を準備する。生徒は読み取ったことから、わかりやすい壁新聞にするための考えを互いに持ち寄り、班で話し合う活動を設定する。その結果を発表し、整理・統合する過程で社会的事象についての認識を深め、多面的・多角的に考えることができるようにしたい。

(3) 社会のつながりを実感できる、まとめと振り返りの工夫

- ねらいに応じた質の高い振り返りにするための視点の与え方
- 学習評価の工夫（見取る、指導に生かす、記録に残す）

本時終末段階で、本事業のねらいである「北方領土問題について、今後も関心を持ち続けることができる」よう、「北方領土問題について他者に関心を持ってもらうためにはどうすべきか」という問いかけ・視点を与えたい。また、学習評価については、本校学校研究においても取り組んでいる「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」を単元計画および本時の指導過程に記載し、単元全体で指導との一体化を図りたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 北方領土の歴史や現状、とらえている対策などについて主権国家と関連させて理解している。	① 北方領土問題について、その歴史や現状などを相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現している。	① 北方領土問題について、見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究している。 ② 北方領土問題について、今後も関心を持ち続けようとしている。

6 単元の指導と評価計画（5時間）

時間	目標（☆） 学習活動（・）	記録に残す評価（◎） [評価方法] 指導に生かす評価（○） [評価方法] 留意点（◇）
1	☆主権国家の概念を確認し、主権国家同士が対立を平和的に解決するための取り組みについて知る。 ・主権国家を構成する要素を確認する。 ・国際法の役割と、国際協調のための取り組みについて知る。	○主権国家の概念と、主権国家同士が対立を平和的に解決するための取り組みについて確認することができる。 【知識・技能】 [観察]
2 本時	☆北方領土に関する資料をもとに、北方領土問題について発信する際にどのような情報が必要かを多面的・多角的に考え、北方領土問題を「歴史」・「占領前の暮らし」・「現状」・「元島民の思い」・「将来への展望」などの観点でとらえることができる。 ・北方領土に関するレディネステストの結果や資料を見て、考えを深める。 ・記事にできそうな事柄を資料から読み取り、付箋に書く。 ・グループに分かれて、付箋に書かれた考えを観点ごとに分類する。	○多面的・多角的な資料を基に、北方領土問題を分析し、それを5つの観点に分類することができる。 【思・判・表】 [付箋・学習プリント] ◇分類をする際には、こちらから観点を与えるのではなく、生徒の言葉を生かして観点に分類できるように、てこ入れする。
3	☆壁新聞に掲載する記事を選定することで、北方領土問題のなかで特にどの部分に関心があるのかを知る。 ・壁新聞に掲載したい記事の内容を話し合い、まとめる。	○掲載したい記事の内容を話し合い、北方領土問題についての考えを整理することができる。 【態度】 [観察]

4	<p>☆選定した記事を基に、壁新聞を作成することを通して、北方領土問題について、根拠に基づいた主張ができるようになる。</p> <p>・壁新聞の作成をする。</p>	<p>◎自分が選んだ項目に関して、資料を基に、根拠に基づいた自分自身の主張を踏まえて壁新聞を作成することができている。</p> <p>【知識・技能】 [学習プリント]</p>
5	<p>☆壁新聞を完成させ、これまでの学習のまとめと振り返りを行うことで、北方領土問題への関心を更に高める。</p> <p>・壁新聞を完成させる。</p> <p>・学習のまとめと振り返りを行う。</p>	<p>◎北方領土問題について、複数の観点を相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、まとめている。</p> <p>【思・判・表】 [学習プリント]</p> <p>◎これまでの学習を振り返るとともに、北方領土問題への関心をさらに高めている。</p> <p>【態度】 [振り返りシート]</p>

7 本時の指導

(1) 目標 北方領土に関する資料をもとに、北方領土問題について発信する際にどのような情報が必要かを多面的・多角的に考え、北方領土問題を「歴史」・「占領前の暮らし」・「現状」・「元島民の思い」・「将来への展望」などの観点でとらえることができる。

(2) 指導過程

	学習活動	主な発問 (□) や指示 (◇) 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (※) 記録に残す評価 (◎) 指導に生かす評価 (○)
導入 5分	1. 北方領土の写真を見て考える。 (2分)	□この写真は、どこの景色を写したのだと思いますか？ ・九州 ・北海道 ・北方領土 □北方領土は、どこに属する島ですか？ ・北海道 ・日本 ◇「北方四島」の名称を、それぞれ隣同士で確認しましょう。	※季節（気候）や地形に目を向けさせる。
	2. 現在の北方領土の街並みを写した写真を見て考える。(3分)	□どうして現在はこのような風景が広がっているのでしょうか？ ・日本人が住んでいないから。 ・ロシア人が住んでいるから。 ・ロシアに不法占拠されたから。	※ロシア（旧ソ連）に、不法に占拠された状態であることを確認する。
展開 38分	3. 北方領土についての既存の知識を確認する。 (3分)	□このこと以外で、皆さんが北方領土について知っていることはありますか？ ・まだロシアから返してもらっていない。 ・多くの日本人が追い出された。	※北方領土についての既存の知識を確認させる。
	4. アンケートの結果を確認する。 (3分)	◇3年1組の皆さんと、●中の先生方にとってアンケートの結果を見てみましょう。	※数名に、アンケートの結果を見た感想を発表させる。 ※北方領土問題に対して、あまり関心を寄せていない人が多いことを認識させ、何とかして知ってもらわなければいけないという気持ちを引き出し、学習課題につなげる。

学習課題

●中の先生方・生徒の皆に、北方領土についてよく知ってもらうためには、どんなことを記事にして発信すればいいだろう？

5. 北方領土についての資料を読み取り、付箋に書き出す。
(14分)

◇資料を見て、新聞の記事にできそうなことや、●中の皆に伝えたいと思ったことを、付箋に書き出してみましょう。

資料名『北方領土』
※予め、資料を教師側で区切り、担当したい箇所を生徒に決めさせる。

6. 付箋に書き出したものを項目ごとに分類する。
(13分)

□今書き出したものを、種類が同じもの同士に分けられないでしょうか？

◇班で話し合い、付箋を仲間分けしましょう。仲間分けをしたら、そのグループに名前を付けましょう。

※先に、壁新聞は掲載できる量が限られていることと、記事を項目ごとに整理したほうが読みやすいことを伝える。
※机間指導をし、適宜アドバイスをする。
※班活動のようすを観察し、他の班では出てきていないようなカテゴリーをしている班があれば、教師側で全体に共有する。

7. 学習のまとめをする。(7分)

□●中の先生方・生徒の皆に、北方領土についてよく知ってもらうためには、どんなことを記事にして発信すればいいでしょうか？

◇学習プリントに書きましょう。
(5分)

◎北方領土に関する資料をもとに、北方領土問題について発信する際にどのような情報が必要かを多面的・多角的に考え、北方領土問題を「歴史」・「占領前の暮らし」・「現状」・「元島民の思い」・「将来への展望」などの観点でとらえることができている。

※数名に発表させる。(2分)

終末
7
分